

開催日: 令和元年5月30日(木)

場所: 生野区役所5階 502・503会議室

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
緒方区PTA 副会長	地域によって温度差がすごく、全く知らない保護者の方もいるのが現状である。私も昨年に話を聞いて、進捗状況を知ったぐらいである。もっと話を聞く場が増えないと、今も全く知らない保護者がたくさんいると思う。	—
村上委員	学校設置協議会の設置目標が4中学校区で実績が3中学校区で目標未達成というのは違和感がある。その他の目標設定数値でも、初期設定値はどういう根拠に基づいている数値なのか疑問である。	前年度の目標から、さらに上になるような形で目標設定を行っている。当然、目標数値を上回る項目については、さらなる目標設定を掲げてまいりたい。
鈴木区PTA 副会長	平成30年の11月に中学校区学校設置協議会が設置されたということだが、やっぱり地域と学校は離すことができないのに、不参加の地域があるというのはとても残念なことだと思う。これからこの不参加の地域に対してはどのように働きかけていく予定にされているのか。	統廃合の案に納得しきれしていない部分や、通学距離の問題や残された学校跡地の問題など、いろいろ不安な部分もある中で、具体的にいろいろご相談しながら、解決策を一緒に考えていくという形で話し、皆さんに参加いただけるように取り組んでいかなければならない。特に通学路の問題に関しては、区独自のルールが適用できないかということも含めて、地域にもまた話をさせていただきたい。
新井委員	学校再編のことに関しては、私は区役所から聞きたいことや説明については本当に十分過ぎるぐらい聞いているが、それを説明する場もたくさんあったし、情報を取りに行かない人たちが聞いていないと言うのは、ちょっと違うのではないかと。もし気になるとか自分たちのことだと思うのであれば、その場に行き話を聞くべきだし意見も出してほしい。	—
新井委員	再編で一つになった桃谷中学校について、それに携わった方たちの思いというのを、鶴中の閉校式のときの言葉などいろいろなものを見せてもらったときに、胸がつまるくらい皆さんの思いが詰まっていて感動した。1+1=2じゃなく3にも4にもという思いを、私たちはそこをもっと深めていかなければいけないと思うし、本当にやってよかったと思えるように、歩いていく一歩を私たちは助けていかなければいけないと思う。	—

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
米川委員	<p>学校が荒れていることについて、PTA全員で学校に毎日交代で、みんなを見守ってこうということで3年間行った結果、子どもたちも挨拶ができるようになった。保護者が見守っているという形に持っていったら、子どもの荒れているのもちょっと落ちつくのではないかと経験上思った。</p>	<p>区長には、区担当教育次長として、生野区内の公立小中学校、幼稚園に対しての学校施策の後押しをしたり評価をしたりするという役目がある。そこで、学校に出向いて校長先生の話の聞いたり、地域の方の意見も聞いたり、実際の子どもの様子を見て、助言したり、教育委員会と連携して何らかの支援をし、そういった立場にもあるので、今日いただいたご意見は、また学校のほうにも返せるようにしたい。</p>
林委員	<p>また、生徒だけではなく、先生の方も少し気になる言動がある。</p>	
新井委員	<p>生涯学習の発表について、舞台の上にいるいろいろなものを展示するというのがほかの区にはないらしく、展示されているのかというご意見をいただいたりして、本当にすばらしい、いい企画であったと思う。“いくのde育～”の活用ということで、アクセス数も9,191件あって、皆さんがその情報を楽しみにして見ているのではないかなという、本当にこれがあらわれた数ではないか。生きるチカラを育む絵本プロジェクトの中で、「わくわくいっぱい、絵本PARKinいくの」に参加された方も673名、写真など見させていただいたが、たくさんの方が参加されていて、こういうことから子育てって楽しいと思ってくれたらよくなるんじゃないかなと思った。たくさんいろいろなイベントとかも頑張っているって、私は単に目標達成という言葉にしてしまうのがもったいないなと逆に思っている。</p>	—
伊藤委員	<p>授業でわからないところはそのままにしておく子どもがたくさんいる。そんなときに、授業が終わったときにすぐに対応できるようなシステム、例えば人材バンクなど、教育資格を持った方とか、あるいは大学生に少しフォローしてもらえればいいかと思う。子どもたちは自分が興味のあることであれば、どんどん進んでいくので、人材バンクも含めて地域にいる有資格者、司書の方に来ていただいて、図書館はいつも開いているという形を少し考えていただけたらありがたい。</p>	—

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
松田委員	<p>生野区は主任児童委員も多くて、なかなかまとめることも容易ではなく、子育てイベントをすることが難しいと思っていたところ、5年ほど前から区役所の子育て支援室のほうに協力いただいたのがきっかけとなり、こういうふうイベントをして、3回もしているのと他の区の方から言っていただけになり、協賛・協力していただく方がすごく増えて、こうやって人数も増えている。小学校になった途端によその区に引っ越してしまうというパターンが少し多いように思われるので、手が離れると自分らで暮らしていくというか、それがもったいないと思う。居場所という形で子どもたちがいる場所をつくってあげて、貧困だけではなくて、別にお金のあるなしに関係なく、みんなが寄れる場所をつくっていただきたいと思う。今までもずっとこのいくのっ子広場のことも絵本展等もいろいろ区役所のほうから、私たち児童委員に相談をしていただいて、たくさんこういうイベントができたことにすごく感謝している。</p>	—
新井委員	<p>大池中学校では、いろいろな国の子どもたちが来て、日本語が全く話せなくて、生野区長が推進されているやさしい日本語をもっともっと推進して広げていって、それを理解していってくれたら、救われる子どもたちが沢山いると思う。</p> <p>みんなが横のつながりを持って、やさしい日本語を推進していただけたら、いろいろな国の子どもたちも助けられるのではないかなと思う。</p>	—

令和元年度生野区区政会議(第3回こどもの未来部会)
 いただいた主なご意見等(要約)と区の方針、対応

開催日:令和2年1月21日(火)

場所:生野区役所6階 604・605会議室

発言者	ご提言(要約)	区の方針、対応(要約)
船方委員	<p>生野中学校と田島中学校の再編のところで、同じ小中一貫校であるけれども、1つは義務教育学校で、1つは施設一体型小中一貫校となっている。去年4月に開校した桃谷中学校の時はその話はなかったと思う。どういった経過でこのように決まったのかを教えてください。</p> <p>また、2種類の学校ができることで、この2種類の学校間で学力に差が出ないのかという不安がある。その点についてもお聞きしたい。</p>	<p>生野区西部地域学校再編整備計画では、1学年、複数学級となるように再編を考えているが、単に数合わせを行うだけではなく、こどもにとってよりよい教育環境とするために、9年間で育てていくという観点で、小中一貫した教育ということを一つの柱として行ってまいりたいと考えている。</p> <p>なお、去年4月に開校した桃谷中学校の時は、特に中学校の再編を急ぐべきとの考えのもと、小学校に先行して再編を行ってきたものであるため、小中一貫という話はあまりしていなかったが、小中一貫した教育をしていこうという計画である。</p> <p>次に、2種類の学校ができることで、学校間で教育に差が生じないかとの点だが、それぞれの学校においてこどもたちの実態を把握し、工夫した教育活動を行うので、絶対的に差は出てくる。ただし、それは学校の種別によって生じるのではない。いずれにしても、公立の学校なので、学習指導要領に沿って教育活動を行うので、大きく逸脱したものにはならない。</p>
榎木委員	<p>学校が再編された場合、こども見守り隊はどうなるのか。</p>	<p>こども見守り隊については、引き続き、ご協力をお願いしたいと考えている。当然再編によって通学路が遠くなる児童も多くなることから、学校設置協議会の中で新しい通学路の安全対策についてご意見を頂きながら、対策を検討していくことになるが、その中で、今までこども見守り隊にご協力いただいている部分は、引き続き、ご協力をお願いする方向で計画を進めている。</p>
大藤委員	<p>学校の跡地活用の参考事例には、どのようなものがあるのか。</p>	<p>例えば、京都市に京都精華大学と共同運営している「京都国際マンガミュージアム」という施設がある。小学生は年間1,200円で漫画が読み放題となっており、こどもだけでなく大人も利用し、いわゆる居場所となっている。また、建物は、地域の夏まつり、運動会、避難所として活用するとともに、学校の思い出の部屋も残っており、歴代の校長先生の写真、学校の歴史、また校歌とともにビデオが流れるなど卒業された方が訪れる部屋がある。</p> <p>他の事例では、ものづくり学校になったり、介護施設、保育園、児童館など様々となっている。</p> <p>文部科学省のホームページに「みんなの廃校」プロジェクトというサイトがあるので、ご参照いただければと思う。</p>
新井区PTA協議会会長	<p>今、学校には、様々な国のこどもたちが通っており、中には日本語が話せないこどももいる。いったん中学校に登校して、すぐに日本語指導を行う学校に通いに行くが、遠い場所まで行く必要がある。学校の跡地で、日本語を教えるところ学校ができれば、こどもの安全の面からも助かると思う。</p>	<p>—</p>

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
金委員	<p>小・中学校の課題は、幼児教育の時に届かなかった部分大きいと思う。絵本の読み聞かせや幼児教育など子育てにおいて、未来像をどのように考えているのか。</p>	<p>絵本の読み聞かせでは、来年度、(仮称)絵本100選という企画を考えており、お勧めの絵本の紹介と絵本を読んだ時にこどもがどのような表情をしたのかということ記録する日記を作成して配付したいと考えている。また、冊子の中には、子育て支援施設の場所も掲載し、子育ての孤立化が少なくなるように進めてまいりたい。</p> <p>幼児教育については、教育委員会で幼児教育と小学校の連携を研究しているが、保育士不足という問題もあり、課題の解決までには至っていない状況となっている。ただ、小学校入学前の過程での差は、小学校2年生までに適切な支援があれば埋まるというデータがあるので、低学年への学習支援も大切だと考えている。</p>
池原委員	<p>こども食堂は、「こどもたちに朝御飯を食べさせてあげて、元気にしたい」との思いから始め、月2回、舍利寺小学校の生徒を対象に実施している。こども食堂では、「挨拶をする」、「靴は脱いで並べる」、「手を洗う」、「(食事はバイキング形式なので、)食べ物は絶対に残さない」など、先ずは礼儀等から教えるようにしている。月2回しかないが、みんな楽しみにしてくれていて、遅刻も減ったと聞いている。できるだけ続けていき、こどもたちに元気をあげたいと思う。</p>	—
大藤委員	<p>中学生が高校生になって通学した後の状況について、特に中退した場合に出身中学校への連絡や復学等へのフォローはあるのか。</p>	<p>特に中退者が出た場合に出身校への連絡等があるのかの点については、常日頃から中高で連携しながら進めている中で、個々の事情を踏まえた上で出身中学校に連絡することになっている。</p> <p>なお、大阪市では、次の進路で悩んだ時に寄り添いながらフォローを行う「大阪市若者自立支援事業コネクションズおおさか」などを紹介する「十人十色な進み方」というチラシを、大阪情報コンピュータ高等専修学校の生徒と話し合いながら作成し、一先ず区内の中学校と高校等に配付させていただいた。引き続き、広く情報を伝達していく。</p>
田中委員	<p>魅力的な教育環境づくりを行った事例として、平野区の加美東小学校の図書室改修プロジェクトがあったので紹介する。</p> <p>今回の図書室の改修工事では、設計者などは地域のプロの方に無償で協力してもらい、大工は用務員が担うことで、材料費のみの費用負担で改修を行ったと聞いている。また、改修後の図書室では、「こどもたちが来なくなる図書室をつくろう」ということで、こどもに読ませたい推薦図書を並べるのではなく、こどもが読みたいと思う本を並べた。そうすることで、だんだんとみんなが寄ってきて、本を読むようになって、荒れていた学校が良くなったと聞いている。</p> <p>やはり地域の方がこどもたちのために力を貸す、そういう姿をこどもたちも見ていたのではないかと思う。生野区でも、そういう大人が知恵を出し合いながら、こどもたちのために何かをする姿を見せられればと思う。</p>	—

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
山崎委員	<p>多くのイベントやプロジェクトがあるが、受け取る側の問題もあるかもしれないが、正直あまり知らない。良い取組みをしていると思うので、情報を届けてほしいと思うし、全体で何か伝える方法を考えていけたらと思う。</p>	—
新井区PTA協議会会長	<p>「生きるチカラを育む絵本プロジェクト」というイベントは、お父さんが子どもを連れて来て絵本を選ばせたり、妊娠期のお母さんがイヤイヤ期の子どもを抱いて来てくれたりなど、イベントを通じて、子育ての悩み相談など大変な思いをされている方の手助けができる非常に良いイベントなので、継続して推進してほしいと思う。</p>	—